

## 茅ヶ崎西浜高等学校 令和6年度1学期終業式

日 時 令和6年7月22日（月）9：15

場 所 オンライン（会議室にて）

皆さん、おはようございます。

今日の終業式、本当は体育館で行いたかったのですが、熱中症の危険があるため、急遽オンラインに切り替えました。皆さんに直接会えず、様子がわからないのがとても残念ですが、話を聞いてください。

今日は、最初、皆さんにある文章をご紹介します。これから私が読み上げますので、よく聞いて、場面を想像してください。

「ある日、父親とその息子が車で出かけたが、途中で交通事故に遭ってしまった。運転していた父親と、息子は別々の救急病院へ搬送された。息子が運ばれた救急病院の手術室で、運び込まれてきた少年を見た外科医はこう言った。『この子は 私の息子です!』」（もう一度読みます）

さて、今、私が読んだ文章を、違和感なく理解できましたか？ それとも、なにか変だと思いましたか？ 変だと思った人は、どこが変ですか？

ヒントです。この文章を理解できるかどうかは、性別意識です。外科医の性別をどう考えましたか。「外科医は男性」と思い込んでしまうと、「外科医は父親、父親も事故に遭ったのに…父親が二人いる？」というような発想になってしまい混乱します。ですが、「外科医は女性」とすればどうでしょう。「外科医は母親だ」とすんなり理解できる、どこも変ではない文章です。

そう、私たちには、アンコンシャス・バイアスという、「無意識の偏見・思い込み」があります。アンコンシャス・バイアスは、多くの過去の経験や周囲の意見、日々接する情報から形成されるもので、誰もが持っています。

例えば、性別に対するステレオタイプは「ジェンダーバイアス」と呼ばれ、性別固定役割分担意識を助長する思い込みの一つとなります。「男性は外で働き、女性は家庭を守るもの」という決めつけ。

正常性バイアスは、予期しづらい事態、危機的状況を過小評価し、これは正常の範囲であり「自分は大丈夫だ」と思い込むこと。「私に限って、災害に巻き込まれることはない」など。

権威バイアスは、権威のある人や専門家の言動はすべて正しいと思い込み、深く考えずに信用してしまうこと。「専門家の意見に従っていれば間違いない」とか「先生の言うことはすべて正しい」とか。

自分のアンコンシャス・バイアスに無自覚な場合、判断の単純化や決めつけの助長といった悪影響を及ぼす可能性があります。決めつけることで判断に誤りがあったり、人を無意識に傷つけてしまったりすることも起こり得ます。

少し話はそれますが、先月、性別変更後の女性を「父」と認める最高裁の判決がありました。内容を簡単に説明します。その女性は男性として生まれ、女性として生き

るトランスジェンダー。自身の凍結精子を使ってパートナーの女性が長女を出産、その後、性同一性障害特例法に基づいて戸籍上の性別を女性に変更しました。性別変更後、今度は凍結精子で次女が誕生しましたが、トランスジェンダー女性と娘二人に当初は法的な親子関係が認められず提訴します。

一審の東京家裁は娘2人との親子関係を認めませんでした。続く、二審の東京高裁は、性別変更する前に生まれた長女とのみ父子関係を認めました。そして、最高裁では次女との父子関係も認める、というものでした。

つまり、トランスジェンダー女性と二人の娘の親子関係を認める結果となりました。生物学上の親と、親の性別変更後にできた子との法的親子関係について、最高裁が判断したのは初めてということで新聞の1面にも出ていました。

当初、私は、新聞記事を1回読んだだけでは内容が理解できませんでした。まさに、アンコンシャス・バイアスです。もう一度ゆっくり読み返して理解し、そして、最高裁判決の理由について書かれた箇所を読んだとき、感動を覚えました。こう書いてありました。「親子関係の存否（あるかないか）は子どもの福祉に深く関わる」つまり、戸籍上の性別が女性だからといって法的関係を認めないと、子どもは血縁上の父から扶養を受ける権利がなく、相続人にもなれず「子の福祉や利益に反する」というのです。私の解釈ですが、子どもに焦点をあてた判決だと思いました。トランスジェンダー女性の権利もさることながら、判断基準で最優先すべきは、弱い立場にある子どもであると。

私たちは日々、いろんなことを判断し決定しながら生活しています。例えば、コンビニで今日のお昼はパンにしようかおにぎりにしようか、ということから、将来の進路設計にいたるまで、絶えず意思決定の連続です。そこで大切なのは、自分でしっかり考えて、自分で判断すること。判断基準で何を優先するかということ。ものごとを決めつけることなく、広い視野を持つことです。

1学期最後に皆さんにお伝えしたいと思いました。

今週7/22（月）～7/28（日）は、「ともに生きるかながわ推進週間」です。まずは、自分を大切にしてください。そして、周りの人も大切にしましょう。

また、神奈川県立高校生に向けたメッセージ動画「拉致被害者家族横田拓也さんから高校生の皆さんへ」もclassroomで配信されています。休み中に視聴してください。

今日で1学期が終わります。明日からはいよいよ夏休みです。けがや事故のないよう有意義な夏を過ごしてください。

これで私の話を終わります。